

2021年度活動報告

組込みシステム産業振興機構

1. 第1部会(教育事業)年間活動報告

2021年度 事業計画

1. 「組込み適塾」のブランド価値向上と活用促進

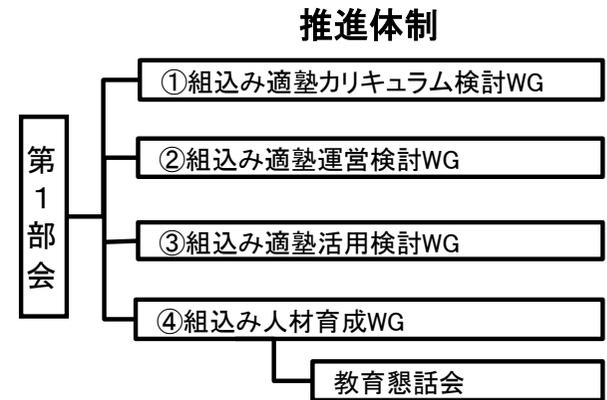
- (1) STEP5事業方針「十字型人材の輩出」を目指したカリキュラムの改善・拡充(①)
- (2) iCDに基づく講座レベルの明確化成果の活用と適塾コースマップ改善(③)
- (3) お墨付き取得の再検討(対象再調査と応募検討)(③)
- (4) 次年度以降のアフターコロナを想定した組込み適塾開催形態の検討(②)

2. 自由で活発な交流の”場”の提供

- (1) 関係者/講師/受講生間の人的ネットワーク形成の支援(②)

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

- (1) 「十字型人材の育成」に向けた新たな組込み人材育成施策の検討と教育懇話会の開催(④)
- (2) 組込み適塾への「優良修了認定制」の導入と評価(④)



2021年度の実績

1. 「組込み適塾」のブランド価値向上と活用促進

【目標】受講生満足度85%以上継続。アドバンスコースの棚卸しと他団体との連携検討完了。講座レベル付け成果活用案策定とキャリアガイド改善完了。お墨付き取得再調査と対応方針決定。次年度の開催形態決定。

【実績】オンライン開催を継続、受講者数は前年並みながら、開催規模拡大により延べ受講講座数は増加。受講生満足度は91.0%(前年88.0%)と更に向上。

- (1) 35講座(対前年+6講座)、38日間(対前年+10日間)で開催。受講者数は190名で増減なし。延べ受講講座数は647講座(対前年+110講座)。前年初参加の会員や非会員機関が多かったが定着せず。一方、前年様子見であった8機関が復帰。受講機関数は減少(35→30機関)。受講生満足度は91.0%で大きく向上。前年度、オンライン化初年度のため大きく低下した講師からの評価は全指標で大幅に改善、2019年度以上に。2022年度からアドバンスコースを廃止し、ビジネス・システムデザインコースを新設。一部の講座をコースから独立の特別専門講座群に再編。情報セキュリティ大学院大学との連携についてはニーズがないことから連携提案をお断り。
- (2) iCDに基づく講座レベル付けの成果の活用については、一部から強い反発があり外部への公表も内部での活用もしないことに決定。キャリアガイドの改善は取りやめ、コースマップおよびHPでのわかりやすさ改善に留めた。お墨付きは再検討の結果、適当なものがないと判断。
- (3) 次年度も基本的にオンラインで開催し、講師の希望により集合形式で実施することを決定。集合形式の実施条件と実施可否判断基準を策定。

2. 自由で活発な交流の”場”の提供

【目標】2019年度並み(式典・講師会後も含め7回)の交流会の開催、LMSの掲示板の利用数(講座数、スレッド数)対前年50%増

【実績】昨年中止した式典のうち、修了式のみ出席者を絞って集合形式で開催。但し、交流会はすべて中止。LMSの掲示板の利用数は回復。

- (1) 適塾説明会と入塾式はオンラインで開催。修了式は来賓と受賞者のみに絞り集合形式で開催。交流会は式典後・講座後ともすべて中止。Moodleの質疑・交流用掲示板の活用は、購読をpush型に変えたことで対前年倍増。活発に活用する講座とそうでない講座に二極化。

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

【目標】新規人材育成施策の提案、教育懇話会(3回)開催、優良修了認定制の評価完了

【実績】教育懇話会を3回開催。うち2回のテーマを元に講座新設を提案。優良修了認定制を導入し、評価を完了。

- (1) 教育懇話会を3回開催。それらのテーマを元にした講座新設提案は行ったが、人材育成施策の提案には至らず。
- (2) 優良修了認定制度をアーキテクチャ設計コースに導入し、3名を認定。制度の評価を行い、講座間の調整はせず、講師の評定結果に従うことを決定。

2021年度 事業計画

1. 戦略的展示会開催によるビジネス創出支援

- (1) 戦略的に展示会を開催し、ビジネス創出の場を提供(①)
- (2) 展示先企業のニーズ情報の取得、展示先企業との人脈形成など、出展成果向上のための施策実施(①)
- (3) 展示先企業の要望に応じて、オンサイト型/オンライン型など多様な開催方式での実施(①)
- (4) 来場者・出展社の評価を定量化し、施策改善に活用(①)

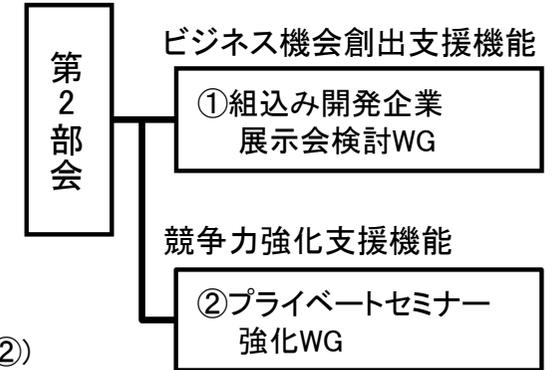
2. プライベートセミナーによる競争力強化支援

- (1) 会員にとって競争力強化につながる講演を提供(②)
- (2) 組込み開発企業展示会の展示先企業向けセミナーとの連携(②)
- (3) ハイブリッド開催を前提として、講師と会場・オンライン参加者の活発な意見交換の場を提供(②)
- (4) 先端施設見学会を開催(②)

3. WINKと連携し、参加チームの要望に応じた支援の場を提供

- (1) WINK参加チームからの要望があれば、展示会、プライベートセミナーなど部会活動を活用した場を提供(①②)

推進体制



2021年度の実績

1. 戦略的展示会開催によるビジネス創出支援

【目標】 年間3回開催(昨年度繰り越し含む)。会員メリット向上のための継続的な施策改善。展示会の出展企業の成果の定量化、見える化。

【実績】 第18回組込み開発企業展示会を三菱電機(株)神戸製作所対象に、機構として初めてのオンライン型での展示会を開催。

コロナ禍が断続的に続いたことから、第19回以降の展示先候補企業が希望するオンサイト型での開催合意を得ることができなかった。

- (1) 三菱電機にてオンライン開催、130名の参加。実績1回。次回展示会については、コロナ禍により展示先候補企業からの今年度開催の合意なし。
- (2) 緊急事態宣言中のためオンライン交流会を開催したが、展示先企業はオンラインでの交流会参加を希望せず。
- (3) with コロナを見越し、今後は展示先希望によりオンライン開催、オンサイト開催の両面で開催することを決定した。開催候補先1社にはハイブリッド型でも提案。今後の開催候補4社と協議した末、2社は来年度開催を予定、2社は辞退となった。
- (4) 第15回～第17回組込み開発企業展示会の出展企業へのアンケートを実施、いずれの展示会も出展企業の約70%から満足と高評価。

2. プライベートセミナーによる競争力強化支援

【目標】 プライベートセミナー 年間4回開催。参加者:平均30名、内・会場参加者平均12名。先端施設見学会 年間2回開催。

【実績】 年間4回開催。ハイブリッド開催することにより、遠方の会員や、前後に予定が入っており参加が難しかった会員からの積極的な参加があった。

- (1) 目標通り4回開催。5G・AI・事例紹介と過去参加者へのアンケートで要望の高かったテーマで開催した。参加者平均は30名、内・会場参加はコロナ禍の影響もあり12名。講師、参加者との交流、懇談会を目的に会場参加する参加者が多かった。
- (2) 三菱電機展示会での講演(産総研 大岩氏)をプライベートセミナーで実施。会員企業の関心が高く40名が参加、77%が「業務に役立った」と回答。
- (3) 4回ともハイブリッドで開催。すべての回で、講師と会場、オンラインからの参加者による活発な質疑応答、意見交換があった。
- (4) ダイキン工業(最新IoT活用工場・IoTプロジェクトセンター見学と会員企業技術紹介)と5G X Lab OSAKA(デモ見学、Softbank交流)の2回実施。

3. WINKと連携しオープンイノベーション創出の場を提供

【目標】 WINKから生まれたアイデアのビジネス化を支援。

【実績】 第2部会会合において、過去優勝チームとの連携案内を行った。プライベートセミナーの聴講、活用を打診したが、応募チームは無かった。

- (1) 第2部会会合にて、2020年度優勝チーム(KIMI crew)の企画紹介と、連携先募集の案内を行った。会員企業から優勝チームへのコンタクトあり。

3. 企画広報部会(企画・広報事業)年間活動報告

2021年度 事業計画

1. “WINK”コンテストを通じたオープンイノベーションの場の更なる充実
 - (1)広報活動強化による参加チームの多様性、応募数の確保
 - (2)ビジネス化に向けたアフターフォローの強化
2. 公的研究機関、独立行政法人、大学、経済団体等との連携による戦略的情報発信
 - (1)外部団体との連携による各種セミナーを通じた最先端技術の情報発信
3. 地域間連携及び団体間連携による更なる活動基盤の強化
 - (1)第10回全国組込み産業フォーラムによる中国地域との連携と団体間交流
4. 部会施策の広報支援やプロモーションによる機構のプレゼンス向上
 - (1)機構主要施策のプロモーション継続と各種メディアを通じた情報発信
 - (2)関連団体イベントへの共催・出展・後援などを通じた情報発信
 - (3)広報機会の増加による研究会の活性化

2021年度の実績

1. “WINK”コンテストを通じたオープンイノベーションの場の更なる充実
 - 【目標】応募チーム10チーム以上(学生・非会員層から3チーム)、過年度を含めた受賞チームに対するビジネス化支援(1件以上/チーム)
 - 【実績】応募:18チーム(内 学生・非会員層 11チーム)、希望する受賞チーム(4チーム)を対象にビジネス化支援1~4件/1チーム
 - (1) 応募チームの早期募集開始及び多様な広報活動(SNS、学校関係、他団体等へのアプローチ)等を実施
昨年度に引き続きハイブリッド開催を大きなトラブル無く運営
 - (2) 過去受賞チームのプロモーション、支援機関への相談、ナレッジサロンへの登壇サポート [6件]
2. 公的研究機関、独立行政法人、大学、経済団体等との連携による戦略的情報発信
 - 【目標】外部団体と共催等によるセミナーの実施[3件]
 - 【実績】KIIS・近経局・関経連・産総研と共催等によるセミナーの開催[3件]
 - (1) KIIS・近経局・関経連と連携(組込みシステム・セキュリティセミナー)、関経連・産総研他と連携(第10回全国組込み産業フォーラム)
産総研・関経連と連携(AI時代のモノづくりセミナー) [3件]
3. 地域間連携及び団体間連携による更なる活動基盤の強化
 - 【目標】第10回全国組込み産業フォーラムの開催と既存連携団体との関係強化、新規連携団体の拡充
 - 【実績】ひろしま産業振興機構との共同での主催によりオンライン形態にて開催
 - (1) 組込み関連団体、産総研、経産省等の既存連携団体との関係強化、新規連携3団体との関係を構築
4. 部会施策の広報支援やプロモーションによる機構のプレゼンス向上
 - 【目標】各施策での記事掲載[3件]、外部イベントでの情報発信[3件]、新規研究会の立ち上げ[2件]
 - 【実績】各施策での記事掲載[9件]、外部イベントでの情報発信[6件]、新規研究会の立ち上げ[0件]
 - (1) 新聞:組込み適塾、総会、WINK、AI時代のモノづくりセミナー [8件]、関経連機関紙:WINK[1件]
 - (2) 組込み適塾他機構施策紹介:WINK2021他[3件]、組込み適塾電子資料配架他:ASIFフォーラム他[3件]
 - (3) 認知度向上に向け、部会会合等で研究会制度の情報発信を実施するも新規研究会立ち上げに至らず